

帖がうち、四帖は五の、四帖は四のあるなり、五のあるをすみにかくる人あれども、それはわろし、四のあるをすみくりにかけて、五のあるを四方のくちにかくべし。

〔類聚雜要抄〕四帷卷上事三東西南面上方上之

四尺之几帳高二上天、南面ハ紐前ナキ之津者女口ヲ爲面也、東西ハ同埒ナ爲北、凡濃色方ナ爲上、并面シ天、鉸之。

〔延喜式〕縫十四殿凡洗御帳帷料物、申内侍給之、其載帳車就馬寮請用之。

〔西宮記〕四月改御裝束

同日日〇三自殿上請下納所、冬御帳帷、御几帳帷十六張、三尺六寸、壁代十二條返十月上

〔北山抄〕五大嘗會事

辰日裝束天慶巳日御插兩國豐樂殿東西第三間構壇繼高座壇、悠紐有東階、主基有西階、東修理職、西木工寮作之其上立御帳卷

三面帷承平又令卷乾良二角云々、而天慶例如之

〔江家次第〕正月七日節會裝束

御帳懸帷掃部女孺供奉之、上東巽南坤西五面帷、垂乾北艮三方帷、藏人催之

〔建武年中行事〕四月ついたち、御衣がへなれば、所々御玄やうぞくあらたむ、御殿御帳のかたびら、おもてすゞしにごふんにて繪をかくべし、かべしろみなてつす、よるのおとゞもをなじ。

〔小右記〕天元五年二月十八日辛巳、參内、明日東宮山御元服雜事等令催行之、南殿御帳帷仰掃部

寮、女官等令懸、件等事以式部允公正令行。

〔榮花物語〕二十のまひ六月元〇萬壽にもなりぬれば、廿六日、かの藥師堂の供養、れいの事どもえも

いはすめでたし、略〇中このほとけの御うしろ、ひんがしのかたに、まごごとにとをたてたり、佛の御

うしろには、みかうしをみじかやかにまわたして、むらさきのすそごの御帳にて泥してゑがき